

1. 基本情報

事務事業名	08 青梅市民センター事業				事業類型	施設運営受益者負担型			
予 算	会計 10	一般会計	款 02	総務費	項 01	総務管理費	目 01	総務管理費	予算額 20,217 千円
長期計画	章 9	みんなが参画し協働するまち		施策分野 1	市民参画・協働		基本施策	(4) 市民センター機能の多様化	
関連計画	実施計画 事業番号・事業名								
根拠法令等	青梅市市民センター条例								

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	目的（どういう状態にしたいのか）
全市民	福祉の増進と地域社会の振興を図るとともに、市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活動を展開する場に供するため、市民センター会議室、体育館の利用率向上を図る。

3. 事業の指標と単位当たりコスト

							平成30年4月1日現在人口	134,708 人
成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)
会議室稼働率	年間利用回数/年間利用可能回数	%	目標			64.6	64.6	
			実績		64.6	62.1	-2.5	443.4 円
			単位コスト	円	844,427 円	961,787 円	117,360 円	市民1人当たり純行政コスト(f/人口)
体育館稼働率	年間利用回数/年間利用可能回数	%	目標			65.0	65.0	
			実績		65.0	62.9	-2.1	428.9 円
			単位コスト	円	839,231 円	949,555 円	110,324 円	

4. 行政コスト計算書

										(単位：千円)	
勘定科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	勘定科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A		
経常費用	人件費	職員給与費	26,639	26,796	157	経常収益	分担金・負担金	0	0	0	
		賞与等引当金繰入額	2,147	2,244	97		使用料・手数料	1,605	1,548	-57	
		退職手当引当金繰入額	230	2,569	2,339		その他	446	402	-44	
		その他	0	0	0		合計(a)	0	2,051	1,950	-101
		小計	0	29,016	31,609		2,593	臨時損失(c)	0	0	0
	業務費用	物件費	19,046	21,258	2,212	臨時利益(d)	0	0	0	0	
		維持補修費	74	768	694	臨時損益(d-c-e)	0	0	0	0	
		減価償却費	6,316	5,994	-322	純行政コスト(f)=(b+e)-a	0	52,499	57,777	5,278	
		その他	0	0	0						
		小計	0	25,436	28,020	2,584					
移転費用	支払利息	0	0	0							
	その他	98	98	0							
	小計	0	98	98	0						
合計(b)	0	54,550	59,727	5,177							

科目	年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
その他	2,051	1,950	1,950	-101
合計	0	2,051	1,950	-101

5. 人員体制

					(単位：人)
	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	
職員		2.16	2.16	-0.00	
再任用職員		2.00	2.00	0.00	
嘱託職員		0.00	0.00	0.00	
計	0.00	4.16	4.16	-0.00	

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> 物件費（臨時事務賃金）1,182,856円 物件費（光熱水費）3,656,160円【電気、ガス、上下水道】 物件費（備品購入費）66,960円【ベビーキープ】 維持補修費（修繕料）762,480円【エアコン修繕他】 	<ul style="list-style-type: none"> 使用料（市民センター） 使用回数 3,230回、人数 26,677人 使用料（市民センター体育館） 使用回数 2,180回、人数 17,450人 その他内訳 施設光熱費等業者負担金 60,000円 複写機等利用料 281,771円
主な増減理由	市民センター移転に伴う、引越作業事務に必要な臨時事務員の確保にかかる賃金の増、天ヶ瀬体育館トイレ排水管詰りにかかる修繕料の増	29年度センター使用回数3,365回（前年比△135回） 29年度体育館使用回数2,217回（前年比△37回）

					(単位：%)
区 分	年度	29 年度	30 年度		
有形固定資産減価償却率		83.6	85.1		
受益者負担割合(a/b)		3.8	3.3		

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		29年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	29年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A	
資産の部	有形固定資産	事業用資産	566,182	560,188	-5,994	負債の部	固定負債	0	0
		土地	496,610	496,610	0		地方債	0	0
		建物	379,234	379,234	0		退職手当引当金	18,711	18,350
		減価償却累計額	-317,777	-323,044	-5,267		その他	0	0
		その他	8,115	7,388	-727		流動負債	0	0
		インフラ資産	0	0	0		1年内償還予定地方債	0	0
		土地	0	0	0		未払金	0	0
		工作物	0	0	0		賞与等引当金	2,147	2,244
		減価償却累計額	0	0	0		その他	0	0
		その他	0	0	0		合計	20,858	20,594
	物品	861	0	-861	固定資産等形成分	566,182	560,188		
	減価償却累計額	-861	0	861	余剰分(不足分)	-20,858	-20,594		
	無形固定資産	0	0	0	合計	545,324	539,594		
	投資その他の資産	0	0	0	負債および純資産の部 合計	566,182	560,188		
	流動資産	現金	0	0	0	-5,730	-5,994		
未収金	0	0	0						
徴収不能引当金	0	0	0						
その他	0	0	0						
合計	566,182	560,188	-5,994						

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> 青梅市民センター用敷地 2,389.95平方メートル 天ヶ瀬体育館用敷地 1,435.45平方メートル 	決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> 青梅市民センター(鉄筋コンクリート造地上3階建) 980.77平方メートル 天ヶ瀬体育館(鉄骨造平屋建) 837.00平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

29年度末時点の課題事項	計画的な改修は実施しているが、老朽化に伴う修繕や備品が壊れるなど突発的なことが発生するため、引き続き、計画的な修繕や備品整備が必要。	対応結果	解決	事業目的を達成するための30年度事業目標【Plan】	施設利用率の向上のため、より安全で快適な施設が維持できるよう、施設の維持管理や備品整備を実施するとともに、地域コミュニティが活性化するように、事業(文化祭、老壮大学など)の企画を工夫し、実施していく。また、平成31年4月から開設予定の「生涯学習施設(仮称)」に移転予定であるため、社会教育課と連携しながら詳細を協議していく。
上記目標達成に向けた主な活動実績効果【Do】	<ul style="list-style-type: none"> 本館多目的トイレに備品としてベビーキープを設置し、利用者の利便性の向上を図ることができた。(備品費66,960円) 青梅老壮大学教室(開催9回、参加人数755人)等を実施し、地域コミュニティ活動の推進を図ることができた。 本館プラインド修繕、トイレ排水管修繕を実施し、利用者の快適性向上対策を取ることができた。 				
事業評価【Check】				総合評価【Check】	
【効率性】事業の進め方	B(良い)	【経済性】予算の使い方	B(良い)	【有効性】施策達成に対し	B(良い)
評価結果から明らかになった課題事項【Check】	安全、快適に利用してもらうための計画的な改修、修繕を実施していくこと。 <ul style="list-style-type: none"> 老朽化に伴う修繕の維持補修 自主事業の企画立案 	今後の取組【Action】		平成31年4月から、青梅市民センター業務はネットたまぐーセンター(文化交流センター)にて継続していく。社会教育課と連携しながら、施設利用率の向上のため、より安全で快適な施設が維持できるよう、施設の維持管理に努めるとともに、地域コミュニティが活性化するように、事業(文化祭、老壮大学など)の企画を工夫し、実施していく。	今後の方向性【Action】
					改善

※A 非常に良い=改善の余地なし、B 良い=必要に応じて改善、C 悪い=改善または廃止を検討

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	<p>他の市民センターと比較し、会議室の稼働率は高いものの、体育館については低い状況となっている。また、前年度稼働率と比較すると、どちらの稼働率も下がっている。</p> <p>本センターについては、令和元年度から、新たに完成した「ネットたまぐーセンター(青梅市文化交流センター)」に移転した。今後も、地域コミュニティの拠点施設として、地域住民が利用しやすい施設運営を行うとともに、体育館についても、低稼働率となった理由について検証し、稼働率を上げる工夫を継続する必要がある。</p> <p>また、体育館については、施設の老朽化が進んでいることから、突発的な改修・修繕の発生を抑制するよう、日常的に施設・備品等の点検を実施するほか、他の市民センターとともに、計画的に修繕等を行い、経常費用の抑制に努めつつ、施設の魅力づくりを行う必要がある。</p>
----	---